



ブラックホールは怖くない? ブラックホール天文学基礎編

福江 純著

恒星社厚生閣 184頁 定価 3,300円+税

教科書

お薦め度

☆☆☆☆

- T: おっ、S、どうした？
- S: 先生がこの間、授業で紹介していた本を読んだんですよ。
- T: ああ、「ブラックホールは怖くない？」だな。自分で買ったのか？
- S: まさかあ、3,465円もするんですよ。うちの親がクリスマスプレゼントにくれたんです。
- T: ありがたい親心だな。で、全部読んだのか？
- S: はい、一応……。
- T: 一応？ 出てくる数式も簡単だし、数式コーナーが分かれているから読みやすいと思うけど。
- S: 数式コーナーはちょこっと飛ばしてしまいました。
- T: おまえなあ、あれくらいなら中学生でも理解できるぞ。
- S: まさかあ。でも、最後の「ブラックホールをねえ！」は、面白かったです。
- T: どこかで聞いたような題名だけどな。あの章は本全体のまとめにもなっているし、ブラックホールへの旅行の具体的なイメージが得られて面白いよな。
- S: 普通のブラックホールの方が怖いんですね。
- T: 怖い？ ああ、巨大ブラックホールの方が潮汐力が弱って話だな。
- S: そう、それです。「生きたまま」ブラックホールに入れるんですよ。
- T: まあ、たとえ話ではそうだね。ほかに面白かったのはないの？
- S: 「おばQ定理」ですかねえ。
- T: そんなのばっかだな。「時間と空間の統一」(第2章)とか、ちゃんと理解できたのか？
- S: はい、あそこはわかりやすかったです。でも、ちょっと気になるところが……図2.16なんですけど。
- T: ミンコフスキーダイアグラムだな。それがどうした？
- S: 世界線の傾きは45度よりきついんですよ？
- T: 光の速度を超えられないからな。
- S: でも、この図のぐにゃぐにゃの世界線の傾きはところどころ45度より緩いんですけど……。
- T: おまえ、よくそんな細かいところ見てるなあ。まあ、ちょっとマウスが滑ったんだろ。
- S: あと、24ページの数式コーナーの図の意味がよくわからないんですけど。
- T: ああ、「電磁波の伝播」の絵だな。たしかに、前後の文脈からは唐突だな。
- S: 他の挿し絵とか、表やグラフはわかりやすかったんですけど。
- T: 本文で示されているグラフの元になっている数式は、「数式コーナー」で解説されているから、自分で確かめることもできるしな。
- S: ところで、先生、この著者の人ですけど。
- T: ん？ 福江先生？
- S: 「おたく」なんですか？
- T: は？ なんてこと言うんだ、おまえは。
- S: だって、「趣味は、SF、まんが、アニメ、ゲーム」って。
- T: ああ、まあ、狭い意味での「おたく」かもし

れないけど、福江先生は、ブラックホールの周りの降着円盤とか、ジェットとか、相対論が関係している現象の専門家なんだよ。まあ、学者はある意味、みんな「おたく」というてもいいかもな。

- S: ふーん、そうなんですか。
- T: 福江先生は、ほかにもたくさん本を書いているんだ。「SF天文学入門」なんいう、先生の趣味と実益を兼ねたような本もあるから、読んで見たらいいよ。
- S: SFですか。そういえば、この本にも、ちらちらとSF的なことが書いてありましたけど。
- T: そうだな。福江先生もがまんでできなかったのかもな。でも、全体としては、教科書に近いよ。
- S: そういえば、この本はシリーズものなんですよな。
- T: うん、そうだよ。予定によれば、全12巻プラ

ス別巻らしい。

- S: そのうち、福江先生は3巻も書くらしいですけど。
- T: ああ、福江先生は筆が速いからな。この本の続きが第7巻で出るらしいよ。「ブラックホールを飼いならす！」って題だ。
- S: また、変な題名ですねえ。
- T: まあ、題名はともかく、応用編らしいから、そっちも読んでみたら。
- S: はい、そうしてみます。でも、3,000円以上するんですよ。自分じゃ買えないなあ。小遣い少ないんすよ。
- T: 図書室に全巻入れるように頼んどくよ。ほかの巻の著者もその道のプロだから、面白いシリーズになるだろうし。
- S: ぼくが卒業するまでに全巻出るかなあ？

(天野川創一 国立天文台)

書評原稿ご執筆にあたり

- ◆天文月報は、社団法人日本天文学会が発行する月刊誌であり、一般読者、天文学会会員、および他分野の研究者に対して、天文学、天体物理学分野での科学的な情報の公開、伝達、普及促進を目的としています。記事を執筆していただくにあたっては、これらの読者の方々にとってわかりやすい記事を用意してさせていただきますようお願いいたします。
- ◆原則として書籍のタイトルを書評の題としてください。題に添えて、対象書籍の著者、出版社、総ページ数、定価をお付け下さい。文末に評者の氏名・所属を記載します。
- ◆分類を教科書、解説書、専門書、研究資料、読み物、ソフトウェアの中から一つ選んで下さい。
- ◆評者の「独断」で、対象書籍に対して「お奨め度」を付けて下さい。☆の数で表し、最高は白星☆五つ星です。
- ◆書評をして頂いた場合には、その図書を進呈いたします。